

静岡県の 学校図書館

静岡県総合教育センター
主催研修・講座案内

研修 案内

『1人1台端末環境下における
多様なメディア活用
-学校図書館活用研修-』

対象：教職員（小・中・特・私学・
事務局）※特・私学は高校、高等部を除く

学習指導要領において、学校図書館は、児童・生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報収集・選択・活用能力を育成する「学習・情報センター」としての機能が求められています。

本研修では、情報活用能力を育てる授業や教育活動の実現のため、1人1台端末と学校図書館の活用について、『どう使う？学校図書館と1人1台端末はじめの一步』の編集委員を務められた放送大学客員教授の堀川照代氏をお招きし、講演と演習を行います。また、県立中央図書館の職員を講師に招き、データベース、Webページを用いた情報収集についての演習を行う予定です。

ぜひご受講ください。



講義：データベースを利用した情報収集について

講師：静岡県立中央図書館職員

講演：学校図書館における1人1台端末の活用を
考える

講師：放送大学客員教授 堀川照代氏

開催日：令和5年7月5日（水）

会場：静岡県総合教育センター

申込：県総合教育センターのホームページにある「研
修管理システム」よりお申し込みください

令和5年5月発行

発行：静岡県総合教育センター

総務企画・ICT推進課生涯学習推進班

電話：0537-24-9715

メール：sogokyoiiku-soumuict@pref.shizuoka.lg.jp

県総合教育センターでは、例年学校図書館の活用を推進するための研修・講座を実施しています。今年度行う内容は、以下のとおりです。

講座 案内

『令和5年度 みんなでつくろう
学校図書館講座』

対象：教職員、学校司書、学校
図書館ボランティアなど

学習指導要領において、学校図書館は、児童生徒の学習に対する興味関心を呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能が求められています。

近年、読書推進活動にゲームを活用している公共図書館や学校図書館が増えています。

本講座では、横浜国立大学の石田喜美准教授をお招きし「ゲームでつなぐ教室と学校図書館」と題して、ゲームを取り入れた読書指導や学校図書館運営についてお話をいただきます。教室での学びに結びつけやすいゲームや、委員会活動やクラブ活動など、児童生徒の自主企画に結びつけやすいゲームの紹介をしていただくほか、ゲーム体験の時間も設ける予定です。

併せて、著作権に関する講義も行います。学校教育や学校図書館運営において、今後ますます著作権に関する知識が必要となっています。

ぜひご受講ください。

講義：「教育活動・学校図書館と著作権」

講師：静岡県立中央図書館職員

講演：「ゲームでつなぐ教室と学校図書館」

ゲーム体験：「図書館たほいや」

ゲーム体験：「みんなで本を持ち寄って ~Bring
your own book~」

講師：横浜国立大学教育学部准教授 石田喜美氏

開催日：令和5年9月22日（金）

会場：静岡県総合教育センター

申込：7月上旬より開始予定



事業案内

静岡県総合教育センター事業 学校等支援研修

当センターの事業「学校等支援研修」では、主体的な学びを支える学校図書館づくりのための支援を行っています。配架の方法や読書支援の方法など、学校図書館運営に関する支援を依頼したい場合はご連絡ください。

連絡先及び申込方法等の詳細は、県総合教育センターのホームページに掲載しております「研修ガイドブック」をご覧ください。また、

次の二次元バーコードからホームページの該当ページにアクセスすることもできます。



あすなろ図書室から

あすなろ図書室案内

県総合教育センターあすなろ図書室は、教育関係図書や教育雑誌、大学や他県の教育資料など、教育に関する資料を提供する、教育専門図書室です。また、過去の検定用教科書を所蔵しており、小学校は昭和36年度、中学校は昭和37年度、高等学校は昭和31年度から収集しています。開館中であれば自由に見ることができますので、ぜひご利用ください。



教育資料案内

県総合教育センターでは、県内学校の記念誌や研究論文など、教育に関する資料を新旧問わず、網羅的に収集しています。各学校で作成した資料、廃棄する資料等ございましたらご連絡ください。

資料案内

学校図書館に複数の新聞を

文部科学省が策定した「第6次学校図書館図書整備等5か年計画」では、学校図書館における新聞の複数紙配備について具体的な目標が示されています。

【新聞の複数紙配備目標】

- 小学校等：2紙
- 中学校等：3紙
- 高等学校等：5紙

複数紙の配備には、選挙年齢の18歳以上への引下げや、成年年齢の18歳引下げに伴い、児童生徒が主体的に主権者として必要な資質・能力を育む狙いがあります。しかし、令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」によると学校図書館に新聞を配備している学校は5割以下、学校図書館または普通教室のいずれかに新聞が配備されている学校の平均紙数は小学校が1.6紙、中学校が2.7紙、高校が3.5紙にとどまっています。

学校図書館での新聞活用について理論や実践方法を知るには、次の資料が参考になります。必要に応じてご覧ください。

【図書】

書名	出版者	出版年
学校図書館における新聞の活用	全国学校図書館協議会	2006
学習指導要領に沿って 新聞活用の工夫提案 NIE ガイドブック 小学校編・中学校編・高等学校編	日本新聞協会	2011 ~ 2013
雑誌『学校図書館』 793号・794号 特集 新聞活用の過去・現在・未来	全国学校図書館協議会	2017
NIE 実践報告書 2021年度 教育に新聞を	静岡県NIE推進協議会	2022
新聞で育む、つなぐ	東洋館出版社	2015
はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用	ミネルヴァ書房	2013

【インターネット】

- 『NIE 教育に新聞を(NIE)』(日本新聞協会)
<https://nie.jp/>
- 『静岡新聞 NIE』(静岡新聞社)
<https://www.at-s.com/blogs/nie/>